

# インベスト・イン・カナダ



サマリーレポート - 2011年度版

Canada

# 世界トップクラスの経済

カナダ経済は、世界で最も優れた先進性と活力を誇る経済の一つです。その実績は比較対象となるアジア、ヨーロッパ、北米諸国を何度も上回っています。

- **安定した成長** – 1兆5700億米ドルのカナダ経済は世界第9位。ロシア、インド、韓国を凌ぐ規模です。
- **グローバル企業の本拠** – 『ファイナンシャル・タイムズ』が選んだ「グローバル500社」のうち、27社がカナダにあります。カナダに本拠を置く一流国際企業の数、ドイツ、インド、ブラジル、ロシア、イタリアを上回ります。
- **G7諸国中最高の成長率** – 過去10年間、カナダ経済は、他のG7諸国より急成長を遂げてきました。これは次のような背景によるものです。
  - ◇ 低い法人税
  - ◇ 賢明な財政管理と金融行政
  - ◇ 革新や起業家精神が活かされるビジネス環境
  - ◇ 外国からの直接投資を歓迎する開かれた経済
- **成長の見込み** – 国際通貨基金 (IMF) によれば、カナダは2011年と2012年も引き続き他のG7諸国よりも速い経済成長を遂げると予想されてます (唯一の例外として、米国はより速い成長をする可能性もあり)。
- **世界不況を乗り切る** – ほかの全ての先進産業諸国と比べて、カナダ経済は最も良い状態で世界不況を乗り切りました。また、G7諸国中で唯一、不況期における生産活動および雇用の減少分の全てを、すでに取り戻しています。
- **少ない国家債務** – カナダ政府は景気刺激策に620億ドルを費やしましたが、今後5年間の純債務増加率はわずか9.8%ポイントに留まると、IMFは予測しています。
- **世界で最も健全な金融制度** – 世界経済フォーラムによると、カナダの金融制度は世界で最も健全です。これは、金融制度の安全性と安定性が新たに注目されている中で、投資家にとって非常に重要な事実でしょう。世界的な経済後退局面においても、公的救済を必要としたカナダの銀行はひとつもありませんでした。
- **安全な銀行** – 北米で安全な銀行トップテンに、2年連続でカナダの銀行6行がランク入りしています。これは、最高水準の金融行政と各行の堅実なバランスシートによるものです。
- **顧客のニーズに敏感な銀行** – カナダの銀行やその他金融機関は、世界の投資家に競争力のある金利を提供し、顧客のニーズに対し迅速に対応します。



通貨の単位は、特に表記がない限りカナダドルです。

## 外国投資家にとって比類なき投資環境

数百に上る世界の一流グローバル企業がカナダに工場や事務所を設立し、何十億ドルもの投資をしています。

### ■ 国際競争力で高い評価

- ◇ 2010年から2014年にビジネスを行う条件の良い国として、G7諸国の中で第1位、世界で第4位(エコノミスト・インテリジェンス・ユニット)。
- ◇ 新規事業設立に必要な手続きの数の少なさで、G7諸国および経済開発協力機構(OECD)加盟国中、第1位(世界銀行グループ)。
- ◇ 投資家を保護する規制制度の強さで、G7諸国中第1位、OECD加盟国中第2位(国際経営開発研究所)。

■ **低い法人所得税** – 2011年1月に16.5%に引き下げられた連邦政府の法人税は、2012年に再び引き下げられ、15%となります。その結果、新規事業投資に対する州と連邦を合わせた法人所得税率は26%となり、米国より13%ポイント以上低くなります。

■ **製造業向け関税免除制度** –カナダはG20諸国の中で初めて、工業製造業者に自由貿易圏を提供します。あらゆる製造材料に関する関税は2015年までにゼロに下げられます。この制度は国全体に適用され、カナダは製造材料を輸入する企業にとって、大きなひとつの自由貿易圏となります。

■ **コスト競争力に優れた立地** – カナダの事業コストはG7諸国で最も低いほか、米国に対して全体的な優位性は5%となっています(KPMGの2010年版『国別事業コスト調査(Competitive Alternatives)』)。

■ **外国投資家に魅力的** – 2000年から2009年の間、人口一人当たりの国外からの直接投資額において、カナダは世界第7位でした。2010年、カナダの対内直接投資残高(ストック)は5616億米ドルに達し、10年間で2倍以上となりました。



## 先進研究および開発の能力

次世代自動車からスマートフォン技術まで、カナダのイノベーションは世界の何百万という人々の暮らしに直結しています。

- **知識を利益に転換** – カナダは、世界最高水準の手厚い研究開発税控除と研究支出に対する加速控除制度を提供しています。カナダに本拠を置き研究開発投資をする企業はすべて、その規模や産業部門、技術分野に関わらず、適格な研究開発に対する優遇税制を利用できます。
- **加速控除** – 対象となる費用は、給与、経費、設備投資、材料、委託研究サービスなどです。
- **研究開発税額控除** – カナダの科学研究・実験開発優遇税制 (Scientific Research and Experimental Development Tax Incentive Program) により、要件を満たした研究開発費の300万ドルまでは35%の税控除、300万ドルを超える出費に対しては20%の還付不可税額控除を受けられます。
- **州税控除** – 連邦政府の優遇税制に加え、州政府も多くの優遇税制を実施しており、外国投資家はカナダで研究開発投資をすることによって、投資額1ドルあたり平均で30セントの節税をすることが可能です。
- **増える研究開発支出** – 2010年の研究開発支出は合計292億ドルで、2001年から26.3%の増加となりました。民間の研究開発企業でのフルタイム就業者数は、1999年から2008年の間に74.1%増と、目覚ましい結果となりました。
- **コスト上の優位性** – カナダで研究開発を行う利点は明確です。カナダの研究開発コストの低さはG7諸国中第2位で、米国に比べると12.9%低くなっています。
- **経済的成功** – 2009年にカナダで研究開発費が多い上位25社のうち、9社は外資系でした。世界金融危機が最悪の時期、これらの企業は研究開発費を前年比6.5%も増やしていました。



## 教育水準が高く、多様で活力ある労働人口

人への投資は、カナダが最も重視する価値観のひとつです。カナダの労働人口は、卓越した目標を達成するために必要な、技術と意欲を備えています。

- **優れた教育** – カナダの教育制度は、優れた質を誇ります(世界経済フォーラムによる2010-2011年『国際競争力レポート(Global Competitiveness Report)』)で、カナダは次のように評価されています。
  - ◇ 教育制度の質でG7諸国中第1位(世界第5位)
  - ◇ 経営スクールの質でG7諸国中第1位(世界第3位)
  - ◇ 初等教育の質でG7諸国中第1位(世界第9位)
  - ◇ 数学・科学教育の質でG7諸国中第1位(世界第10位)
- **トップレベルのビジネススクール** – カナダのビジネススクールは世界トップクラスです。2010年『ブルームバーグ・ビジネスウィーク』による世界のビジネススクール・トップ10のうち、4校がカナダの学校でした。
- **高等教育** – 就労年齢にある全カナダ人の半数以上は、高等教育を受けており、これはOECD加盟国中第2位です。
- **優れた科学力** – 高校生の科学力でカナダはOECD加盟国中第1位にランクされています。
- **多文化の強み** – カナダは多文化・多言語の労働人口を有する多様性に富む社会で、世界各地の市場をターゲットとする企業にとってユニークな強みを提供します。カナダ人の2割は英語やフランス語以外の言語を母語としています。
- **生活の質** – カナダの生活の質は、人を受け入れる懐の深さ、多様性の尊重、都市の治安の良さを際立った特徴とし、世界中から創造力と才能ある労働者を引きつけています。マーサーLLCの定評ある『世界生活環境調査(Quality of Living survey)』2010年版では、バンクーバー、オタワ、トロント、モントリオール、カルガリーが、北米の上位5位にランクされました。
- **専門職就労者に好まれる国** – カナダは、世界の労働市場で最も需要の高い労働者が、生活し仕事をしたいと望む場所です。カナダは個人へ均等に機会を与える点で、G7諸国で第1位と評価されています(IMD 2010年度『世界競争力年鑑(World Competitiveness Yearbook)』)。



## 絶好のロケーション

巨大な米国市場への比類ない近さと、アジア・ヨーロッパから北米中心部への輸送にかかる時間が最短。

- **世界一流のインフラ** – 先ごろ行われた数十億ドルの投資により、カナダの世界水準の輸送インフラはより一層優れたものになり、カナダから北米中心部への物資輸送がさらに効率的になりました。
- **NAFTAによる優位性** – 北米自由貿易協定 (NAFTA) の一員であるカナダを通して、外国企業は、カナダ、米国、メキシコが構成する、消費者4億5300万人、GDP 合計17.1兆米ドルに上る、高度に統合された市場へのアクセスが得られます。
- **対米ビジネス** – カナダと米国の間には、相互に有益で深い商業関係があります。一日17億米ドルを超える物品とサービスが米加国境を越えて行き来しており、カナダ最大の20都市のうち17都市は、米加国境から車で90分以内の場所にあります。
- **自由貿易協定** – カナダは上記記載国以外で、さらに8カ国と自由貿易協定を締結しています。相手国は、コロンビア、ペルー、ヨルダン、パナマ、ならびに、欧州自由貿易連合加盟国のアイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、スイスです。
- **国際港** – 世界経済フォーラムの報告によると、カナダの港湾インフラはG7諸国中で最高水準です。ハリファックス、プリンスルパート、バンクーバーなどの深水港を世界最大級の船舶が利用し、急速に成長するアジアやヨーロッパ市場と北米とを結んでいます。



# 先端製造業

「当社にとって、カナダは絶好の機会がある国です」

ゼネラル・エレクトリック・カナダ 社長兼CEO エリス・アラン

## 航空宇宙

- カナダの航空宇宙産業は、経済規模がより大きな多くの競合国をしのご、世界第5位の規模を誇ります。
- 航空宇宙産業の年間収益は2009年で222億ドルでした。輸出が生産高の8割を占め、全生産高の57%は米国に輸出されました。
- 研究開発に多く投資をしており、2010年の研究開発投資額は19億ドルに達しました(78%が非軍事)。
- カナダの航空宇宙産業で就労する高度技能労働者は8万3000人、給与は46億ドルにのぼります。カナダ全体で、年間3000人の学生が、最高水準の航空宇宙工学プログラムの大学学部、大学院、博士号レベルを修了しています。
- カナダの航空宇宙産業は、小型ガスタービンエンジンの世界需要の3分の1を供給し、視覚シミュレータの世界市場シェアは7割です。また、民間ヘリコプター市場の25%、着陸装置の3分の1を供給しています。

## 自動車

- カナダは完全に統合された北米自動車市場に属しており、北米全体の年間販売台数は約2000万台、自動車部品の売り上げは2600億米ドルに上ります。カナダのシェアは17%で、生産能力は年間250万台です。
- 自動車産業はカナダ最大の製造業で、カナダの製造業GDPの12%を占めています。自動車産業の企業数は1300社を超え、就労者数は10万9345人に上ります。
- カナダの自動車産業への設備投資は非常に大きく、2001年から2010年の平均年間投資額は35億ドルでした。

- エコノミスト・インテリジェンス・ユニットは、一貫して、カナダが世界の自動車生産国の中で最高の事業環境を提供していると評価しています。
- 自動車産業は積極的な研究開発投資に支えられてきており、過去10年間の年間投資額はおよそ5億ドルでした。
- カナダの組立工場は優れた品質で世界に知られています。J.D. パワーの自動車初期品質調査(Initial Quality Study)では、過去10年間で6回、カナダの2工場が西半球で最も優秀な工場であると評価されています。



## 機械・機器

- 2009年、カナダの機械・機器製造産業の売り上げは、268億ドルに上り、引き続き外国からの投資を引き付けています。
- 機械・機器産業にとって、カナダの大きな魅力は、高技術の労働力と比較的低い生産コストにあります。カナダは、G8諸国中、人口比でエンジニアの数が最も多く、また法定人件費はG7諸国中最も低くなっています。
- その他、投資を決定付ける2つの要因は、北米の大手顧客に近接した立地と、製造および研究開発に関する州税控除です。

# 農産食品

「カノーラ油の需要が世界的に増えているため、カナダは引き続き、ブンゲの成長戦略で極めて重要な地域となります」

北米ブンゲ 社長兼CEO ソレン・シュローダー

## 食品加工

- カナダは世界的な農産食品生産大国として、価格競争力があり品質の高い原材料が豊富なこと、革新的な研究開発、世界市場への優れたアクセスなど、事業上の利点を多く備えています。
- 2009年、カナダの海外から食品加工業への直接投資は合計238億ドルを超えました。
- KPMGの2010年『国別事業コスト調査』で、カナダの食品加工事業コストはG7諸国中最も低いと報告されています。

## 穀物・油糧種子加工

- カナダの穀物・小麦製品は、最高水準の品質と高い価格競争力で世界的に知られています。

- 2008-2009年のカナダの穀物・小麦粉の輸出高は3300万トンで、カナダの穀物・油糧種子の輸出額は、約148億ドルに達しました。
- カナダの食品に対する厳しい品質保証制度により、小麦粉、セモリナ粉、その他穀物製粉製品など輸出農産物は、世界最高品質を維持しています。
- カナダは新種の穀物、油糧種子の開発における世界的リーダーです。カナダで開発されたカノーラは、最も健康によい油のひとつと考えられているカノーラ油の原料です。

## 菓子・ベーカリー製品

- カナダでは砂糖を原料として用いる企業が、高品質の精糖を世界価格で、且つ、安定して供給を得ることができます。これにより、砂糖市場に保護政策を適用している米国の競合企業に対して大きく優位になります。
- カナダでは製菓・ビスケット・ベーカリー産業が活発で、米国への輸出における世界のリーダーです。米国のビスケット・ベーカリー製品輸入のほぼ半分は、カナダからです。

## 機能的食品と栄養補助食品

- 680を超える企業が積極的に健康製品を製造しており、その年間収益は37億ドルにのびります。
- カナダの豊富な天然資源、厳しい品質・安全基準、革新的な研究インフラストラクチャー、官民間の協力を促進する環境が、この産業の成功の基盤となっています。



# 化学・プラスチック

「世界最大規模の炭酸カリウム生産者の当社にとって、サスカチュワンは [肥料需要] の中心地です」

モザイク 社長兼CEO ジム・プロコパンコ

## 化学薬品

- 化学薬品産業はカナダの製造業輸出における第3位で、企業数は2,900社、就業者数は7万710人に上ります。2010年の出荷高は449億ドルで、そのうち輸出が280億ドル(75%が米国向け)でした。
- 世界の10大化学企業のうち9社がカナダに生産施設を持っています。
- 化学薬品産業は2010年に力強い回復を遂げ、基礎化学薬品と樹脂の売り上げは前年比 14%増、営業利益は前年比73%増の23億ドルを記録しました。輸出売り上げの増加率は19%でした。
- 天然ガスの埋蔵量が豊かであることから、競争力のある価格で原料が容易に調達できるほか、エチレンとその派生製品を低コストで生産できます。
- トウモロコシ、小麦などのバイオマス原料からバイオテクノロジーを用いて、一部の有機化学品が生産されています。バイオ廃棄物に基づく技術の商業価値が高まるにつれ、農林産業からの資源を豊富に利用できるカナダは、同分野で世界的に大きな位置を占めるようになるでしょう。

## プラスチック

- 2010年の推定出荷高が168億ドル(うち輸出高67億ドル)に上るカナダのプラスチック産業は、洗練度が高く、多様性に富む産業です。
- 高い技術を持つ機械技師・技術者の人材が豊富であることは、カナダの大きな利点です。カナダの企業は、高品質の射出成形や熱成形機、インフレーションフィルム押出成形システム、波型管押出成形機の専門技術で国際的に認知されています。

- カナダのプラスチック産業は、航空宇宙、自動車、医療機器、電気通信などの先進製造業と、密接に統合されています。
- カナダはバイオマスからプラスチック樹脂を生産する研究における世界のリーダーです。カナダにはそのような代替原料が豊富に存在し、代替原料を容易に調達できる企業は、石油価格の上昇に伴い、新規市場獲得のためのコスト上の優位性が増すこととなります。
- 豊富な埋蔵量のエネルギー資源と、最新技術に精通した高技能労働力が、カナダの合成樹脂産業の成長の原動力となっています。2010年の出荷高は65億ドルで、そのうち輸出が55億ドルでした。



# クリーンテクノロジー

「この投資 [ノバスコシア州との4700万ドルの共同投資] は、大宇の事業多様化戦略の一環として、風力発電分野に参入し、北米市場へ進出することに大きく資するものと期待しています」

大宇造船海洋 社長兼CEO ナム・サンテ

## 再生可能エネルギー

- カナダの発電産業は、北米の送電網と統合されていることにより、世界最大のエネルギー市場へのアクセスが確保されています。また、連邦政府と州政府の再生可能な電力源へのインセンティブと、税控除および研究開発費の税制上の優遇により、投資から生まれる利益が拡大します。
- 連邦政府のプログラム「ecoENERGY for Renewable Power」によって、風力やバイオマス、水力、地熱、太陽光、海洋エネルギーなどの再生可能なエネルギー源からのクリーンな電力供給を増やすために、およそ14億8000万ドルの資金が提供されます。

## バイオエネルギー

- カナダは、エタノール、バイオディーゼル、熱分解油、セルロース系エタノールをはじめとする、さまざまなバイオ燃料の開拓、開発、商業化に継続して取り組んでいます。
- 木質ペレットは発電用燃料源としての魅力が上昇しています。カナダには33の木質ペレット工場があり、合計200万トンの生産能力を有していますが、さらにヨーロッパからの大きな需要を満たすために、20の工場の設立作業が進められています。
- カナダには、廃棄物からエネルギーを回収するバイオガス化の分野でも大きな事業機会が存在します。例えば、エドモントン市の廃棄物は、大規模商業用処理施設によって、年間3600万リットルのバイオエタノールに転換される予定です。

## 風力エネルギー

- カナダが有する世界最長の海岸線、大きな淡水湖、内陸部の広い平野、多数の山脈は、比類のない風資源を生み、カナダは風力発電に理想的な国です。

- 今後5年間で、年間投資額は40億ドル、雇用は1万5000人に達する見込みです。現在、カナダの風力発電設備容量は4,155 MWで、2015年までには、発電量は少なくとも12,000 MWに達すると予測されています。

## 太陽エネルギー

- ほぼ350社の太陽光発電の会社がカナダで事業を行い、3000人を雇用しています。発電設備容量合計は250 MW以上です。
- カナダは太陽エネルギーの研究、開発、商業化における世界のリーダーです。

## 環境技術

- カナダには、環境工学の世界的リーダーとして定評のある企業が多く存在し、廃棄物処理、水処理、土壌修復などの分野で先進の事業を行っています。
- カナダの環境製品サービス市場は、売上高で41億ドルを超え、企業数は約8500社に上ります。
- カナダの大気質管理産業は、最高品質の革新的なソリューションで定評があります。最先端の研究ネットワークに加え、環境規制制度が米国と調和したものであるため、外国投資家はカナダを北米全体の市場へアクセスするための足がかりとして活用することができます。
- カナダ連邦政府汚染地アクションプラン(Federal Contaminated Sites Action Plan)の支援により、2011年末までに全国でほぼ590件の土壌修復プロジェクトが開始されます。

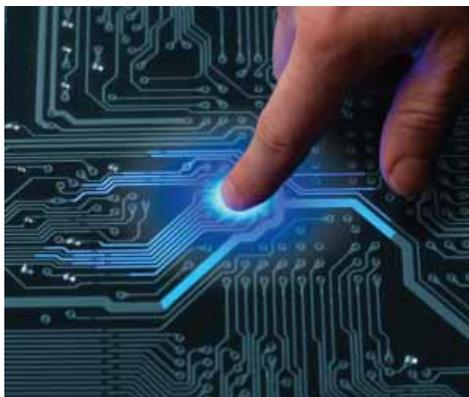
# 情報通信技術

「多様性に富み、開放的なモンリオールは、革新的な就労環境をもたらしてくれます」

ファンコムゲームズ・カナダ CEO ミゲル・キャロン

## デジタルメディア

- 数十年にわたり、世界最大級のデジタルメディア企業の多くが事業立地としてカナダを選んできました。カナダはビデオゲーム開発において世界第3位にランクされており、ビデオゲーム・メーカーの世界トップ10のうち8社がカナダに拠点を設けています。
- カナダのインタラクティブ・デジタルメディア産業は、約3000社で構成され、雇用者数は5万2000人を超えます。また、その製品価値は38億ドルと推定されています。
- Develop 100による、利益性の高いゲーム開発スタジオトップ100リストで、カナダのスタジオが第3位と4位にランク入りしています。2009年のカナダのゲーム開発技術者は1万2500人を数え、わずか1年で30%増加しています。
- Maya® やHoudiniのようなカナダのマルチメディア視覚効果の革新的技術は、ハリウッドの映画産業でも好んで使用され、アカデミー賞の候補にもなっています。



- カナダでは、政府が保健医療に公的資金を投入するプログラムがあり、eHealth産業の発展を促しています。カナダは、その保健医療「情報インフラストラクチャー」施策の一環として、10年間で最大120億ドルを投資します。
- 12億ドル規模の電子セキュリティ産業を持つカナダでは、個人および企業のデータや資産を保護する、革新的なハードウェア、ソフトウェア、サービスを開発しています。電子セキュリティ産業がカナダ国内の大学に委託したITセキュリティ関連研究開発サービスは、過去10年間で52億ドル相当に上りました。

## ソフトウェア

- 「ソフトウェア・マガジン」誌によると、2010年の世界のソフトウェア企業トップ500の中で、38社がカナダの企業でした。
- 高付加価値の事業活動において、カナダの人件費は、比較対象となる他諸国と比べて競争力のあるものです。
- ガートナーグループは、カナダが2011年までに、世界の企業アプリケーションソフトウェア市場中2.5% のシェアを占め、収益は36億ドルになると予測しています。

## ワイヤレス通信

- カナダのワイヤレス技術企業 300社は、WiFi、メッシュネットワーク、WiMAX、RFID、UWB、SDR、ブロードバンド、衛星、光ファイバーアプリケーション分野における主要企業です。
- カナダのワイヤレス事業者がモバイル通信インフラへ行う投資は、年間10億ドルを超えます。
- 有線および無線通信の企業は、情報・通信技術における研究開発の中心的存在で、年間の支出は62億ドルに上っています。
- リサーチ・イン・モーション (BlackBerry®) やシエラ ワイヤレス (AirCard®) などのカナダの企業は、革新的なモバイルプラットフォームや機器で世界の注目を集めています。
- QNXソフトウェアシステムズやアルカテル・ルーセント・カナダは、自動車用LTE接続コンセプトで、モバイルブロードバンドの最前線に立っています。

# ライフサイエンス

「高い技術を持つ労働力と革新的な研究開発施設を利用するため、カナダに事業進出しました」

エーザイ株式会社 上級副社長 フランク・チリエロ

## バイオ医薬品

- 世界の中心的役割を担うカナダの医薬品産業は、国内で最も利益の高い産業のひとつです。カナダの医薬品市場は、ブラジル、中国、スペインに続いて世界第4の急成長を遂げています。
- カナダのバイオ医薬品輸出は近年急増しています。2009年の輸出高は70億ドルに迫り、大半は米国市場向けでした。
- 世界の多国籍医薬品企業の上位10社すべてが、カナダで研究開発し、製造施設、流通センター、事務所を持っています。

- カナダの医薬品産業は、高品質でコスト効率の良い研究と臨床開発で知られています。民間企業は、カナダの17の医学部と100を超える教育病院で活動する3万人の研究者と協力し、大学や病院での研究を利用しています。
- 雇用指数によると、カナダの医薬品製造業は2万8000人以上を雇用し、活況を呈しています。雇用者数はこの10年間で2割増となりました。

## 医療機器

- カナダの70億ドル規模の医療機器産業は世界屈指の大きさです。2009年の輸出高は26億ドルに達し、大半は米国市場に出荷されました。1000社以上、2万6000人の労働者が従事しています。
- カナダでは、生命工学、先進材料、マイクロエレクトロニクス、ソフトウェア、電気通信、ソフトウェア、情報科学における最新の発見を活用して需要の高い製品が生み出されています。
- KPMGの2010年版『国別事業コスト調査』で、医療機器製造施設の設定・運営にかかるコストはG7諸国の中で最も少なく評価されています。
- カナダの大学、研究機関、病院で行われる画期的な研究を利用できることが、同産業の成功を支えています。トロントとモントリオールの両都市に医療技術クラスターがあります。世界初の可動式MRIユニットは、磁気共鳴技術研究でカナダ最先端の機関である、国立研究機構バイオ診断研究所(ウニペグ所在)が生み出したものです。



# サービス

「カナダには健康的で教育水準の高い中流階級、議会民主主義の下での安定した政治環境、そして投資を歓迎する環境があります。これらを鑑み、マッコーリーはカナダを国際事業展開のための適切な事業地として選択しました」

マッコーリーグループ（カナダ）社長兼CEO ポール・ドネリー

## ビジネスサービス

- カナダには、業務プロセスアウトソーシング、人材管理、顧客関係管理、知識プロセスアウトソーシング、財務会計、データマイニング、アプリケーション開発研究、事業継続、災害対策支援において、極めて豊かな専門知識があります。2009年には、これらサービスが606億ドルのGDPを生み出し、120万人のカナダ人を雇用しました。
- A.T. カーニーは、2011年に、カナダの事業環境の質は世界第3位と評価しました。
- カナダは技術サービスの輸出において、米国、英国に続き世界第3位につけ、専門エンジニアの数は16万人を超えています。
- カナダは米国企業への業務プロセスや情報技術アウトソーシングの提供において世界第2位です。IDCでは、カナダのITアウトソーシング市場は、2009年より4%増加して、2010年には150億ドルに達すると予測しています。

## 金融サービス

- 世界経済フォーラムは、3年連続で、カナダの銀行制度は世界で最も健全であると報告しています。
- 2009年、製造・鉱業、石油・ガスの2つの産業分野を除き、カナダにおいて外国からの直接投資が最も多かったのは金融サービス分野でした。
- カナダには強固で高度な規制システムがあり、2008年に起きた世界金融危機からも深刻な影響を受けることはありませんでした。

- ムーディーズは財務力においてカナダの銀行制度は世界一であると評価しています。世界で最も安全な銀行50行のうち6行、北米10大銀行のうち4行はカナダの銀行です。
- カナダの金融サービス産業は拡大し、含まれる業種は、銀行、金融協同組合、保険会社、独立の保険代理店と仲介業者、証券ディーラー、年金や投資信託マネージャーなどとなっています。



## カナダで事業を始めるには

カナダで自社事業設立をお考えですか。またはカナダでの事業パートナーをお探しですか。もしくはカナダを北米全体市場参入のために足がかりとして活用されることをご希望ですか。その様々なご要望に際し、カナダはビジネスをサポートしたいと考えています。そして、私たちはカナダでの事業スタートが簡便になるよう支援いたします。

インベスト・イン・カナダは、州および準州政府と提携し、カナダでの投資プロジェクトの際、的確に支援いたします。

最寄りのカナダ大使館、高等弁務官事務所、領事館までご連絡ください。  
<http://flagship.investincanada.com/contactus>

または、カナダ国内の本部にご連絡ください。

Invest in Canada  
Foreign Affairs and International Trade Canada  
111 Sussex Drive  
Ottawa, ON, Canada K1N 1J1  
Email: [investincanada1@international.gc.ca](mailto:investincanada1@international.gc.ca)  
ホームページ: <http://flagship.investincanada.com>

© Her Majesty the Queen in Right of Canada, 2011

カタログ番号: FR5-24/1-2011J-PDF  
ISBN: 978-0-662-03507-7

